

## 雨量計ってどんなもの？（アメダス）

「予想降水量は5ミリ（mm）です。」って、なんで雨の量を伝えるのに長さの単位なの？雨量を図る装置（雨量計）の大きさ（面積）ってどれくらいかな？面積が違えばたまる水の量も違うんじゃない？っていう疑問もったことありませんか？

それを解決するのが降水量の単位。その地域に降る雨が（一定時間に）「たまる深さ」を表しています。同じ勢いで降る雨は、面積が違ってても、その面積にたまった雨の深さは同じ。だから、単位がmmなんですね。ちなみに雨が入ってくる受け口の面積は直径が20cmだそうで、明治時代から変わっていないそうです。



地面からの跳ね返りなどが入らないように周りが囲われています。



雪や氷を解かすために、冬場でもますの内部を4℃程度に保つ雨量ますもあります。これは主に地方気象台の方がすぐに確認や交換をしづらいところにある雨量ますとして採用されています。



降水量0.5mmたまると傾き、水が捨てられます。その度に電気信号で気象台に送られます。ちなみに、たまる量は $10 \times 10 \times 3.14$  (ますの面積)  $\times$  0.05 (高さ) = 15.7  $\text{cm}^3$  ずつとなります。

ちょっと難しいけど…

佐賀市の嘉瀬川の長さは約57km。嘉瀬川に雨水が流れ込む面積（流域面積）は368 $\text{km}^2$ 。平均の川幅を10mぐらいと考えると、川の面積は0.57 $\text{km}^2$ 。つまり、流域面積の1/600。

流域面積内に「10ミリの雨」が降り、その水が全部嘉瀬川に集まると、10mmの600倍、つまり6mの高さになっちゃう!! そうならないのは、川がとめどなく流れたり、山林が水を貯えたりしてくれるおかげだね。

取材協力：佐賀県地方気象台